



こちらが、今回ご紹介している獣害対策ロボットの大まかな仕組みです

人が見て判断できることは、本ロボットでも判断が出来ます  
 今回ご覧に入れているカメラは、大型で防爆仕様のもので、  
 例えばこのものを使えば、夜間であっても60m先のイノシシ、  
 シカを識別出来ます  
 カメラ部は、目的によって選択できます

本ロボットですが、単独で稼働します  
 インフラ必須のクラウドサービスなどは、必要としません  
 最低のランニングコストで稼働します  
 遠隔で、現地の状況を知ろうとするには、インフラは必要です

忌避具を使用しなければ、監視（モニタ）目的で利用いただく  
 ことが出来ます  
 ターゲットとした対象が現れたときだけに、スナップ写真添付で  
 通知  
 常に録画して、あとから再生して確認するというような手間は、  
 不要になります（監視の省力化）

携帯網接続は、必須ではありません 装置単独で機能します

消費電力  
 主装置単独では、最大40W（現状）  
 カメラ、忌避具ほかの利用状況で変化します

対象を識別・追尾しての忌避行為の実行については、特許取得済みです

ご覧をいただいたご感想、ご意見をお聞かせ下さい、お待ちしております

岡山県岡山市中区祇園433-6 〒703-8207

有限会社青電舎

Tel:086-275-5000 Fax:086-275-8898

seiden@po.harenet.ne.jp

[http://www.seidensha-ltd.co.jp/~seiden/jugai\\_robot.html](http://www.seidensha-ltd.co.jp/~seiden/jugai_robot.html)



SEIDENSHA

2024.02.15